

## 第2回 伊勢崎市部活動地域移行検討委員会 議事録

期 日 令和8年2月6日（金） 10：00～11：30

会 場 市役所北館4階会議室

出席者 矢島 貢委員、武井義夫委員、平林知巳委員、山田千広委員、前原文哉委員、  
塚原正徳委員、橋 憲市委員、吉田啓祐委員

欠 席 菅谷美沙都委員、井野貴文委員、堀田享委員、狩野浩之委員、

### 1 開会

### 2 あいさつ （三好教育長）

- ・部活動の地域展開について、皆様の様々なお助言のおかげで、クリアするべき課題がある中、一步一步進めることができた。
- ・県内12市の教育長と情報交換をする機会があり、その中で、部活動地域展開が必ず話題となっているが、国が現在示しているタイムスケジュールに沿って順調に進んでいる市は一つもない。地域が設置するスポーツクラブ、民間のスポーツクラブへ土日の部活動を完全移行するところには大きなハードルがあると思っている。
- ・一方、学校の部活動をどうするか、教員の労働環境をどうするかという観点からみると、待ったなしの状況にある。国は教員の過重労働の一つであった土日の部活動から解放されることを前提と考え、部活動指導手当の予算を令和8年度には4割削減することを示している。
- ・今、スポーツや部活動に取り組んでいる子供たちは、大会に出場することを目標として頑張っている。しかし、中体連の競技団体によっては考え方が異なっている。今、スポーツに取り組んでいる子供たちが公平にチャンピオンシップを目指せるということも大事にしながら、地域展開を進めていかなければならない。中体連との意思疎通は一層大事にしていかなければならないと考えている。
- ・今後の指導者の確保について、検討委員会の皆様から出していただいた「地域展開に携われる者は、子供たちの成長発達を理解し、スポーツの意義を理解して、生涯にわたってスポーツを愛好できる子供たちを育てられる人材でなければならない。」というご意見を本当にありがたく思っている。
- ・比較的早期から地域クラブを展開した市が、実は失敗だったという情報を頂いた。子供たちは、部活動は学校で行うものと考えており、土日に活動の場を用意しても子供たちが参加しない状況にある。スポーツの魅力そのものをどう子供たちに伝えていくかという課題もしっかり議論しながら、部活動の地域展開を考えていきたい。
- ・本日も、よろしくお願ひしたい。

### 3 報告

#### (事務局)

##### ① 伊勢崎市における部活動地域展開に向けた取り組みについて

- ・地域スポーツクラブ活動体制整備事業を活用した地域クラブ活動の取組として、7競技、9つの合同部活動を市が設置した地域クラブに認定し、地域スポーツクラブ活動体制整備事業を活用した実証事業を実施してきた。
- ・練習日は休日、会場は学校の校庭や体育館とし、指導については各校の顧問、部活動指導員、部活動外部指導者が行った。教員の多忙化解消の観点から、関係する顧問のうち、最低1人は指導に当たらないよう、各校に依頼した。合同チームにより、中体連新人大会へ参加した事例もあった。
- ・成果としては、運営上のトラブルもなく充実した活動となったこと。専門性の高い指導と安全面の配慮が求められる体操と新体操について、学校長や伊勢崎市体操協会と調整しながら、新規の取組を行うことができたことが挙げられる。
- ・課題としては、合同部活動を市が設置する地域クラブとして認定して取り組んできたが、部活動の意味合いが色濃く、部活動と地域クラブ活動の線引きを明確にする必要があること。各学校に合同部活動から拠点校部活動への移行を検討していただいたが、部を廃部にするのは難しく、拠点校部活動への移行が進まない状況にあることが挙げられる。取組の対象になっていない学校もあり、新たな視点での取組が必要である。
- ・伊勢崎市中学校「部活動支援」「地域クラブ活動支援」人材リストの作成については、リーフレットを作成し、市PTA連合会理事会、公民館長会議、伊勢崎市スポーツ協会理事会、伊勢崎市スポーツ推進委員会会議において、部活動地域展開の現状や人材リストの趣旨説明、適任者の推薦を依頼する場を設けた。地域の方々の理解を得ながら、進めている。
- ・今後は、伊勢崎市スポーツ協会と連携し、人材リスト登録希望者を対象に研修会を実施するとともに、人材リストについて準備ができ次第、各学校に情報提供していく。
- ・人材リストのことで、今後、研修会を進めていくが、ここでスポーツ協会の武井会長から一言いただく。

#### (委員)

- ・部活動及び地域クラブの活動支援、そのための人材リストの案を頂いた。学校においては、校長との面接を行い、一般の方は各競技団体からの推薦による名簿を挙げてもらい、スポーツ協会が研修会を実施することとなる。指導に対する統一性や安全性、コンプライアンス等を確保するための研修会を1年に1回は受けていただくようにする。

#### (事務局)

##### ② 部活動地域展開に係る国の動向について

- ・部活動地域展開に係る国の動向としては、文部科学省が令和7年12月に「部活動改革及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン」を策定している。令和8年度から令和13年度までの6年間で「改革実行期間」と定義し、令和8～10年度を「前期」、令和11～13年度を「後期」とし、前期終了時に中間評価を行うこととなった。この期間内に、原則として全ての学校部活動で休日の「地域展開」の実現を目指すことが目標とされている。
- ・名称が「地域移行」から「地域展開」へ変更され、単に活動の主体を学校から地域へ移すのではなく、学校の資源も地域に開きつつ、地域全体で子供たちの活動を支え、新たな価値を創出するという前向きな意味が込められている。
- ・地域クラブ活動の認定制度を導入し、保護者や学校が安心して子供を任せられるよう、市町村が地域クラブを認定する仕組みを構築することが明記された。認定には7つの認定要件があり、主なものとして、暴力・暴言・ハラスメント・いじめ等の不適切行為の防止や、市町村等が定める研修を受講した認定地域クラブ活動指導者による指導体制であること、費用負担は可能な限り低廉な参加費を設定すること、事故対応マニュアルや保険加入など安全管理の徹底すること、学校との連絡調整を適切に行い連携する等である。
- ・財源に関する国の方針が明確化され、基本原則は、指導者への謝金などは「受益者負担」とするが、全額を保護者負担にするのではなく、国・県・市町村が連携して施設費や運営費の一部を支えるとしている。経済的な格差が体験格差につながらないよう、困窮世帯への支援措置を確実に行うことが求められる。
- ・地域クラブで指導を希望する教師については、「兼職兼業」として従事できる環境を整備することが明記された。

#### 4 協議

##### ① 伊勢崎市の方向性について

(事務局)

- ・人材リストの提案については道筋を具現化し、関係機関に周知・連携を図る中で、一步一步進めることができてきた。
- ・伊勢崎市の子供たちがスポーツ文化を享受できる素晴らしい地域を作り上げるため、本日も忌憚のないご意見を頂きたい。
- ・部活動地域展開の方向性については、各市町村で差があることを痛感している。伊勢崎市としては、これまでは実施主体を学校とし、合同部活動など地域と学校とが連携した形で取り組んできた。
- ・今後、休日の部活動地域展開を進めていくにあたり、実施を認定地域クラブで行うことを考えていく。旧伊勢崎市、あずま、赤堀、境の4ブロックを基本とし、横のつながりも大切にしながら、地域クラブ活動に参加していく環境を整えていく。

- ・運営主体としては、国が示すように市長部局及び各種団体となる。指導者については、人材リストを積極的に活用していけるとよい。部活動指導員、教員の兼職兼業を進めていくイメージを作成した。
- ・さらに令和8年度に具体的に進めていく取組案として、境地区のモデルプランについても提案したい。
- ・同時に、全市的な実態を踏まえて、現状の部活動数のスリム化、部活動改革を意図的・積極的に進めていく必要がある。それぞれの立場からご意見を頂きたい。

(委員)

- ・イメージ図が示されたことで分かりやすくなった。
- ・境地区に関しては、拠点校の扱いで大会参加ができており、令和8年度に認定クラブ活動のモデルとすることで、よりイメージが描きやすくなると思う。
- ・リスクマネジメントの上で法人化が必要だと思う。一般財団法人や一般社団法人という形でやっていけるとよい。
- ・部活動数の絞り込みという話については、教員数及び生徒数の減少を保護者等に説明するにあたり、今後の児童生徒数の推移等を資料に追加していけるとよい。

(事務局)

- ・ご指摘を踏まえ、より具体的に、そして見える化を図っていききたい。

(委員)

- ・現在、各校でも部活動指導員がいる部活動については、顧問からも大変ありがたいという話を聞いている。今後、さらに人材リストを活用し、積極的に部活動指導員に入ってもらえるとよい。
- ・生徒数の減少とともに、部活動数に関しては学校現場でも課題となっている。大規模校でもいくつかの部活を縮小していくことを考える必要がある。今後、新体操は関東大会がなくなるため、入学する子供たちに知らせ、縮小するタイミングと考えている。中体連の大会とのつながりを考えながら部活の精選を考えていく必要がある。

(事務局)

- ・今いる先生方は、地域クラブ活動ができたときに、部活動を手放して積極的にやってもらいたいというイメージか。

(委員)

- ・私の感覚ではそういう意向が多いと思う。

(事務局)

- ・人材リストの活用に関しては、校長先生方との面接も踏まえて、しっかり推薦や研修を受けた方ということで確認している。

(委員)

- ・校長との面接を必須としていただくことは、非常にありがたい。

(委員)

- ・中体連では、2027年度の全国大会から選手数や経費を現行から30%減らす方針が考えられている。先生方の大会運営に関する負担軽減という視点、さらには酷暑の中での過酷な種目を避けるといった目的を考え、日本中体連が改革を進めていると聞いている。
- ・陸上では、選手数3割削減や種目別の人数制限を取り入れること、4×100mリレー等の種目の廃止などが考えられている。駅伝でも、男子を6区までであったものを5区にする予定。
- ・正式ではないが、暑い時期は大会をしない、夜に開催するかなども検討されている現状にある。
- ・全国大会がなくなる種目も9つあるが、現時点では関東大会や県大会は行う方向である。その中で、令和8年の総合体育大会をもって県のダンス部が廃止となる。伊勢崎市佐波郡についても、ダンス部は一旦停止となる予定である。
- ・本校では、全教職員に生徒数の減少について具体的に示し、部活動の地域展開を待っているだけでなく、学校職員としても意識して考えていこうと話した。群馬県の提言R5に示されている1つの部活動に2名以上の顧問を配置することが適正であると示されており、かなり減らさなければならない。
- ・教職員一人一人と面談をする中で、部活の在り方について聞かせてもらっている。本校の教職員は部活に対して協力的だが、課題があることも感じている。平日の拠点校部活動については、移動時間がネックになり難しい。合同部活動についても土日の活動はできるが、やはり平日は難しく、なかなか部活の数を減らすわけにはいかないのではないか。
- ・認定地域クラブ活動に関して、スクールバスを活用するとあるが、離れた地域でも運用できるのか。できるのであれば少しは移動時間を削減できると思うが、実際は伊勢崎市では難しいと考えている。
- ・教職員との面談の中で、子供たちの活動の場を確保することを大切にしたいという意見が出た。加えて、教職員の業務の在り方を考えていかなければならないことも伝えている。子供を置き去りにしないよう、地域展開をすることだけを目的しないことが大切で、そのために試行錯誤をしている。
- ・教職員の兼職兼業に関して、今後どのようにしていくのかは関心のあるところである。また、令和8年度新人大会終了後、月1回の土日部活動の休止という提案がされており、教職員への理解をどのように進めて行けばよいのか。
- ・学校の部活動がなくなり、地域の活動の場を紹介してもそこに中学生が集まらないという話も、各郡市の校長先生から聞いている。部活でなくなると、それほどやりたがらない中学生も多い。

(事務局)

- ・子供たちがやるという前提で、環境を整えていこうと私たちも議論を続けている。子供たちが「スポーツっていいな」と思える体制づくりを考えると、中学校だけでなく小学校の段階からやっていく必要があると感じた。
- ・今回示した認定地域クラブ及び部活動改革の方向性について、学校がクリアしなければならない課題はあるか。

(委員)

- ・近い学校同士であっても、冬場は移動だけで時間がなくなってしまう。認定地域クラブの説明の際に示された、4つのブロックという大きな枠組みでは難しいのではないか。さらに細分化する必要も出てくると思う。

(事務局)

- ・安全という観点も含め、より細分化したアプローチが必要になる。

(委員)

- ・部活の数の精選は、以前から話題となっているが、なかなか進まなかった。やはり、目の前に活動している子供がいると廃部にすることは難しく保護者の理解も得られなかった。活動場所を確保することが必要だった。
- ・認定地域クラブを作って子供の活動場所を作るという動きと、部活の数を精選するという動きはリンクさせるべきである。
- ・現在の部活動ガイドラインに沿った形の認定地域クラブを作るためには、学校の部活動と連携した地域クラブを作るということだと理解してるが、そのことが認定地域クラブを作ったときに、足かせとなる部分もあるのではないか。新しく地域スポーツクラブを作るならよいが、既存の団体、例えばスポーツ少年団や総合型スポーツクラブの実態とすり合わせをしていく必要がある。
- ・やがては法人化をしていく必要があるのか。さらに、中体連の全国大会が今後も存続するという判断なのかということも大きなポイントとなると思う。保護者や子供からは、学校のユニフォームを着て試合に出たいという強い要望がある。そうした点も踏まえながら改革を進めていかなければならない。事業主体を市全体で1つにするかなどを検討していく必要がある。
- ・人材リストに関して、研修などを実施していかなければならない中、指導者の方にもインセンティブがあった方がよいと考える。例えば、人材リストに掲載された方に指導者資格を取る際の費用を補助するなど、できれば公的機関で資格を取ってもらうことに支援していく方がよいのではないか。
- ・クラブマネージャーという名称については別の言葉にした方がよいと思う。

(委員)

- ・複数の協会でもクラブマネージャーと言う言葉を使っており、問題ないであろう。

(事務局)

- ・持続可能にしていくために必要なことについて助言をいただいた。課題を一つ一つクリアしながら前に進めていきたい。

(委員)

- ・中学生の放課後の時間が多くなることについて、心配する意見を耳にしている。親としては、多くのことを学校に頼っている。子供は、義務でないと参加しなくなるということはある。部活がなくなり、特に夏休みは常に家にいるのではと心配している。
- ・拠点校となったとき、距離や暑さにより全く参加できない生徒もいるのではないかと、PTAの会議でも話題となる。本来は、家庭の中で親が管理するべきところだが、なかなかできない親もたくさんいると思う。部活に子供の成長やしつけの部分を頼ってきた親がたくさんいると思うので、そこが心配だという声を聞く。

(事務局)

- ・モチベーションの高い子だけでなく、あまりやりたくなかったが、やっていたら面白かったという子を成長させてきたという部分では、部活動は大切なアプローチだったと改めて感じている。

(委員)

- ・小学校の段階でも、今、体験活動が問題になっている中で、どんどん格差が開いていってしまうのではないかと。部活が減っていく中でますます体験格差が大きくなっていくことが心配である。

(事務局)

- ・多感な時期にチャレンジさせる場面や人と関わる機会として、部活動はとても貴重であった。部活動を来年度から0にするということではなく、10年20年かけて徐々に環境を整え、子供たちが主体的に考えることができるようにしていく必要がある。
- ・今後、子供たちのスポーツ文化を伊勢崎市としてどのように育てていくかが課題である。

(委員)

- ・現在、月曜から金曜日まで部活動を行っているが、その延長として外部での土日の活動となる。学校、教育、地域、全てが関わらないとやっていけない。区分けするのではなく、子供たちを全体で見守っていくという意識が大切だと考える。
- ・ジュニアスポーツ講習会をスポーツ協会でも毎年行っている。スポーツ選手、弁護士、医者などの話を聞く機会を設けている中で、人材バンクについても教育委員会から説明してもらおう予定である。

(委員)

- ・各地域の現状が異なり、必要とする人材が集まらない地域も出てくるのではないかと。一律にスタートをすることも難しいため、各学校が種目や指導者の把握を進めていく必要があると感じた。休日の活動についても、平日の流れを伝えていく必要があり、一定期間は教員が調整をしなければならない種目や地域があると思う。イニシアティブを地域の方が取ってくればよいが、しばらくは教員の負担増につながるのではないかと。
- ・どこを拠点校としていくかという問題は、一般の教員には図り知ることができない。持続可能な拠点校を模索するには、様々なデータを持った地域や教育委員会が中心となってすり合わせてもらいたい。
- ・この先、中体連の大会運営に地域の方々にも積極的に関わってもらえることになると思うので、中体連の中でもどのようにしていくかを検討していきたい。
- ・やはり、子供や我々教員も部活動が義務だからやれていた部分もある。地域の活動にも携わっているが、集まってくる子供たちの気持ちも部活動とは違うと感じている。子供たちの取り組み方の温度差というものが、ケガやトラブルに発展してしまうことも懸念される。

(事務局)

- ・子供たちのことをよくわかっている教員のコーディネートがないと、持続可能な活動にはならず、いきなり13年から地域へお願いするという流れには、現実的ではないというご指摘をいただいた。

(委員)

- ・新入生説明会を行い、全体の間ではないが、終了後に6年生の保護者から部活に関する質問がいくつか出された。部活動に対して様々な考えがある子供や保護者に対し、活動の場を確保することについて、学校や地域がどこまでニーズに答えられるのが難しいと感じている。
- ・学校の中でも、個人競技の部活動については関東大会を目指したいという子もいれば、楽しければよいという子もいるので、今後、地域展開する中でどこに照準を合わせるべきか考える必要がある。

(事務局)

- ・今年度の総括としては、人材リストを作ることでバックアップ体制を作り、来年度からはより具現化して進めていくことを了解していただいた。
- ・研修等を含めた地域人材の質を高めることについては、協会からも提案頂いた。
- ・令和8年度の境地区のモデル事業については先ほどの確認の通りだが、実証事業については来年度どのように進めていくのか。

(事務局)

- ・実証事業については、合同部活動の延長ということで、なかなか部活の色が抜けないという課題があった。来年度については、月に1回程度はクラブ活動と位置付けさせてもらい、実証事業の費用を当てていくことで、部活と地域クラブの線引きを明確化していく。それ以外の週はこれまで通り部活動として実施してもらおう形とすることで、地域クラブ化に向けての取り組みを進めていきたいと考えている。

(事務局)

- ・その際には積極的に人材リストを活用していくことを含め、より認定スポーツクラブという位置づけを意識し、各学校と連携させていただきながら進めていく。
- ・ご意見いただいている安全面の確保や進めていく上での課題に、また1年間をかけて取り組み、令和13年に向けてどのようにしていくかを検討していく。
- ・具体的に今後取り組むべき4つの柱について、議論させていただきながら、部活動の改革に関しては校長会とも協議していく。場合によっては協議会を設定し、戦略的なアプローチを多角的に進めていく必要がある。
- ・この検討会は2回ということだが、スポーツ振興課や生涯学習課、スポーツ協会とも事前に担当者レベルでの話し合いを行いながら今日に至っている。分科会という部分も実施しながら、少しでも前に進めていきたい。

(委員)

- ・教員のリストアップについても、学校にお願いしたい。

(三好教育長)

- ・実証事業が最も大きな括りであろうが、境地区のモデル事業と他の地区での実証事業と、どのような違いがあるのか。

(事務局)

- ・他地区でもそれぞれの実情に合わせながら同様に進めていくが、より具体的に示したものが境地区のモデルである。

(三好教育長)

- ・他地区の実証事業でも、認定クラブ活動運営の留意事項をやっていくのか。

(事務局)

- ・少しでも意識してもらいながら取り組んでもらえればありがたいと思っている。

(三好教育長)

- ・合同部活動と変わらなかったことや指導者は顧問だったといった今年の課題をクリアするようなモデル事業として、境地区ではまずやっていくということでよいか。

(事務局)

- ・まずは境地区で進め、他地区でも同じような歩調で少しでもアプローチできればと考えている。
- ・また、令和8年度も引き続きお願いしたい。

## 5 その他

### (委員)

- ・来年度の方向性が話し合われた中で、伊勢崎市として、子供、教員、保護者の方々の今の部活動や地域展開に関する思いや考え方を聞く機会として、アンケート調査などを実施していただけると参考になると考える。
- ・先生方で、兼職兼業をしたいと考えている人が何%いるなどを踏まえて施策を考えていくという市町村もあり、可能であれば検討してもらいたい。
- ・本検討委員会では運動部を中心に話し合ってきた。学校部活動には文化部もあり、伊勢崎市として部活動を考えるということであれば、文化部に関係する方も入っていただき一緒に考えていく必要があると思う。本校職員からも文化部のことも考えて欲しいという意見があったので、ぜひ検討して頂きたい。

## 6 諸連絡

### (事務局)

- ・本実の会議の議事録については、まとめ次第ホームページに掲載する。

## 7 閉会